

説明的文章(8)

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

われわれ日本人が、おおもねたえず一種の脅威を感じているものは、なんといっても、いわゆる「世間」であろう。世間の眼めといい、世間の口といい、世間の思惑といい、世間の義理といいなどするのは、いずれも、漠然と自分を取り巻く周囲の動向を指すものであり、それには特定の個人の場合とは比較にならぬ、ある不可抗力にも似たものを認め、その反応を時には致命的なもの⁵と考えるから、法律や道徳と関係なく、事ごとに「世間をはばかり」という意識が頭をもたげてくる。

それなら「世間」とはいったい何か？ もちろん「社会」という概念とは一致しないが、その道徳と習慣と、特に群集心理によって支配される意思表示とを重くみた考え方で、それはまた、自己保存のほかにはなんらの理想をもたず、非情ともいべき形式的な掟おきての上にたち、すべての異分子的存在を排撃する本能のきわめて目立つ、地域的、時代的に限られた一社会を指すものと思われる。

われわれの「人生」は、この「世間」の裏打ちによって営まれている。それゆえ、¹「世間」の風波の中に個人が生きていることが、すなわち「人生」だ¹⁵という認識こそ「うき世」という言葉を作り出したものといえよう。

西洋でも「人生」は、^{*}憂患多きものとされてはいるが、この「世間」という概念をそれに結びつけるとしても、日本の「世間」ほど²冷酷な調子を含んではいない。

これは、いうまでもなく、個人の自覚と、社会の発達とが「世間」を多少²⁰

ともあたたかく、愛想よくしたからである。つまり、世間は、少なくとも主観的には日本の場合ほど、「暗く」もなく「無気味」でもなくなったのである。日本人の社会意識とか社会感覚とか言われるものが、実際はどういうふうなもの³を指すのか私にははっきりしないが、少なくとも、この「世間」という概念の中に含まれる感情的要素が変わらぬ限り、健康な社会意識も社会²⁵感覚も生まれるはずはないと思う。

「世間をはばかり」という思想が公に認められて今日に至っている証拠はいくらでも挙げられるが、それが国民道徳教育の中に取り入れられているという事実に気がついていているものは少ないかもしれない。

⁴古い教科書ではあるが、^{*}修身に、「責任」という標題をつけた文章が³⁰のついていた。^A九州のある農村で画期的な水利工事を完成した人物の事績を伝えたものである。その人物がいよいよ工事を完成し、大勢の村民の前で、右の水道に水を引いてみせるといふ日の朝、家を出るに当たって、短刀を懐ふところに忍ばせ、万一、工事に不備な点があったら、その場で腹を切る覚悟を決めていた、という話である。この人物は幸い腹を切らずにすんだが、いったいなぜ、工事がうまくいかなかったとあって、腹を切らねば気がすまないのか？ これはけっして純然たる「責任感」のためではないにきまっている。

いわゆる「面目がつぶれる」と自分で思い込むからである。「面目」というのは、「誇り」とはいくぶん違い、それより一層、相手を意識し、相手の思惑を勘定に入れた、他人の眼にうつる自分の値打ちを意味する言葉であって、この場合、⁵自分の失敗が世間によってどう受け取られるかという予想が知らず知らずの前提となっているのである。彼は、自分の仕事に精根を込めて打ち込んだであろうが、それと同時に、世間が自分の仕事の真の性質を理解せず、その成否にのみ興味をつなぎ、結果によっては、彼の着眼と努力とに少しの敬意もはらうことなく、ただ、嘲笑ちやうしょうをもってこれに酬むくいるであろうと⁴⁵いうこと、つまり「世間」の実体を身にしみて知っていたのである。彼はおそらく、責任感の強い人物であつたらう。しかし、責任感以上に[※]の強

い男であったに違いない。工事の成否よりも、ことによると、自分の面目の方を重大に考える一個の人物が目に見えるようである。しかしそれはけつして、彼に限ったことではあるまい。人物教育はそういうふうに行われた時代であり、当時の「世間」はまた是が非でも、不運な彼を殺さずにはおかぬ「世間」なのである。それは必ずしも責任を問うなどという意味ではなく、失敗を恥辱として嘲笑し、人を嘲笑することを無上の快とする風習のためである。

私はこの話を、かつて、日本のある 工兵将校に話して聞かせ、それに対する意見を尋ねてみた。彼は直接に私の問いに答えず、その代わり、彼がアメリカ留学時代、たまたま、所属していた 工兵学校の教官が、学生一同に「技術者の責任」という話をしたことを思い出したといい、これとよく似た実話を私に伝えてくれた。それは、ある地方のダム工事を設計監督した技師が、竣工式の当日、関係者多数の面前で、工事の一部に大きな欠陥があることが発見され、はなはだ面目を失った。が、彼は、その日から、設計をやり直し、工事の完全な結果を見届けて、自己の責任を果たした末、いく日か後にひそかに自殺した——という話である。

ここまでゆけば「責任感」という道德の価値がはっきり浮かび上がってくる。東西の道德の相違は、また、東西の「世間」の相違ともなる。われわれ日本人が、何かしらに脅えている表情は、この「世間」を「悪意に満ちたもの」として、まずこれに対しているということからくる。

岸田国士「恐怖なき生活について」より

(注) 憂患＝心配し、心を痛めること。

修身＝戦前の小中学校で行われた道德教育。

工兵＝土木・建築などの技術的任務に従事する兵種。

竣工式＝工事が出来上がった時、それを披露する式典。

□(1) — 線①「『世間』の風波の中に個人が生きていること」とは、どういうことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア「世間」の移り変わりに適応しながら暮らしていくこと。

イ「世間」の荒波にもまれながら、成長を遂げていくこと。

ウ「世間」の反応に関係なく、自分らしさを貫いていくこと。

エ「世間」の動向に、たえず左右されながら生きていくこと。

□(2) — 線②「冷酷」とほぼ同じ意味で、日本の「世間」の性質を表していることばを、ここより前の本文中から漢字二字で書き抜いて答えなさい。

ア 限られた地域の中で、同じ理想を持った何人かの人々によって形成されていく一社会。

□(3) — 線③「この『世間』という概念」とありますが、筆者は、日本の「世間」をどのようなものとしてとらえていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 限られた地域の中で、同じ理想を持った何人かの人々によって形成されていく一社会。

イ どの時代、どの地域でも通用する、普遍的な道德観や習慣に従うことを重んじる一社会。

ウ 地域や時代によってそれぞれ異なる、個人の意思を守るために機能している一社会。

エ ある地域、ある時代において、共同体内での特異な存在を非難し、退けようとする一社会。

オ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

□(4) — 線④「古い教科書ではあるが、修身に、『責任』という標題をつけた文章がのっていた」とありますが、当時の修身の授業では、『責任』という標題の文章によって、どうすることが責任ある行為だと教えていたのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

イ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ウ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

エ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

オ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

カ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

キ 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ク 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ク 次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が任された仕事に精根を込めて打ち込むこと。
- イ 仕事の成否よりも自分自身の面目を重んじること。
- ウ 仕事に不備があれば腹を切るぐらいの覚悟を持つこと。
- エ だれもしたことがない画期的な仕事を成し遂げること。

- (5) — 線⑤「自分の失敗が世間によってどう受け取られるかという予想」
とありますが、具体的には、「自分の失敗」に対する世間のどのような反応
が予想されるのですか。最も適切なことばを本文中から二字で書き抜いて
答えなさい。

- (6) ※に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 依存心 イ 自立心
- ウ 自尊心 エ 向上心

- (7) — 線⑥「工兵学校の教官が、学生一同に『技術者の責任』という話を
した」とありますが、教官は、この話で、どういうことを学生に教えよう
としたのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな失敗を犯すことが、最終的には、仕事の完全な成功につながり、
責任を果たすことができるということ。
- イ 結果的に成功を収めても、その過程で一度でも失敗を犯せば、きちん
とその責任を負わねばならないということ。
- ウ たとえ面目を失するような失敗を犯しても、その後の良い結果を残せ
ば、名誉を回復することができるということ。
- エ 死にたいぐらいつらい思いをしても、途中で仕事を投げ出すことなく、
最後までやり遂げるべきだということ。

- (8) — 線①「九州のある農村で画期的な水利工事を完成した人物」、②「あ

る地方のダム工事を設計監督した技師」とありますが、①の人物の行為と
②の技師の行為を紹介することで、筆者は、どんなことを述べようとして
いますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア ①の人物の行為も、②の技師の行為も、面目がつぶれることを恐れた
行為であり、そのどちらにも、「責任感」という道徳の価値を見出すこと
はできない。

- イ 失敗して面目を失った②の技師の行為に比べて、①の人物の行為は、
責任を負って面目を保とうとした行為であり、そこに、「責任感」という
道徳の価値を見出すことができる。

- ウ 面目にこだわった①の人物の行為に比べて、②の技師の行為は、責任
を果たすことを重んじた行為であり、そこに、「責任感」という道徳の価
値を見出すことができる。

- エ ①の人物の行為と、②の技師の行為のどちらも、責任を負ったり果た
したりすることを重んじた行為であり、その両方に、「責任感」という道
徳の価値を見出すことができる。

- (9) 本文中で説明されている「世間」を示す具体例として最も適切なものを
次から選び、記号で答えなさい。

- ア 重大な事故を引き起こした鉄道会社に対して、安全対策の見直しを
図るようにと、マスコミが一斉に迫った。
- イ ボランティア先の危険地域で反政府組織に拉致された人質の家族に、
嫌がらせのメールや電話が相次いだ。
- ウ 大した実力を持たない芸人が、一部の人々から熱狂的な支持を得たの
をきっかけに、全国的な人気者になった。
- エ だれもが、被告が犯人だと考えている裁判なのにもかかわらず、証拠
不十分ということで、被告は無罪となった。